

## オレンジリボンキャンペーン

2004年9月、栃木県小山市で2人の幼い兄弟が虐待の末、橋の上から川に投げ入れられて亡くなる事件が起きました。この事件後、小山市内の里親と小山市社会福祉協議会の呼びかけで市民グループ「カンガルーOYAMA」ができました。カンガルーOYAMAは、子どもの気持ちを受け止めた  
ー二度とこのような悲劇が起こらないようにという願いからー

「さくらネットワーク」(全国的な里子たちの会)は、子ども虐待は自分たちの問題であると考えています。里子たち自身が、リボンの色・形を考え、太陽のように明るい未来を願って、オレンジ色に決めました。

東京の「里親子支援のアン基金プロジェクト」は、この活動に賛同し、共に普及啓発の活動を行うことにしました。私たちはオレンジリボンに、二つの思いを込めました。

一つは、子ども虐待防止のシンボルであることです。もう一つは、自分の気持ちに気づくことは子ども虐待の防止につながる、というメッセージです。

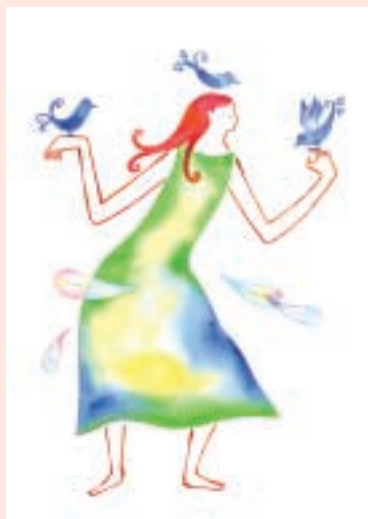


### 子ども虐待の定義は

①身体的暴力 ②心理的暴力 ③性的暴力 ④ネグレクト(放置、養育の放棄)と、2004年11月に改正された児童虐待防止法により、「子どもをDV(家庭内暴力)にさらすこと」も加わりました。

## 2006年11月、「子ども虐待防止のオレンジリボンネット」開設

<http://www.orangeribbon-net.org>



2006年11月、アン基金プロジェクトは、オレンジリボン活動の次のステップとして、気持ちと情報をわかちあう、「子ども虐待防止のオレンジリボンネット」を、日本郵政公社年賀寄附金の助成を受けて開設することになりました。

人と人がつながり合い、気持ちと情報をわかち合えるウェブサイトを、みなさまと共に、作っていきたいと思っています。子ども時代の自分のありのままの気持ち、そして現在の気持ちに気づき、その気持ちを大切にすることを、一人ひとりの大人が実践する時、虐待は遠ざかっていきます。一人でも多くの方に、ご賛同いただけたらと願っています。

「子ども虐待防止のオレンジリボンネット」は、みなさまからのコメント投稿によってつくられる参加型のサイトです。みなさまからの投稿を募集しています。

虐待の防止について考える時、私たちにもできることがあります。そのひとつは、子どもの目線に立ち戻り、心から子どもに共感することです。

自分の気持ちに寄り添い、今のあなたが伝えたい、わかち合いたい  
あなたの子どもの時代のストーリーを、聴かせてくれませんか？

また、ご自身が学んだこと、知っていることで、子ども虐待防止に関わる情報(虐待を読み解くキーワード、市民グループに関する情報、読んでほしい本など)もお寄せください。お待ちしております!